

PROFILE Yusuke Kuroda

平成24年 4月 総務省採用
政治資金適正化委員会事務局
平成25年 4月 自治財政局公営企業課準公営企業室
平成26年 4月 現職

長野県企画振興部市町村課

黒田 祐介



PROFILE Asuka Nomoto

平成24年 1月 総務省採用
自治行政局選挙部管理課
平成25年10月 長崎県企画振興部地域振興課
平成26年 4月 現職

長崎県企画振興部市町村課

野本 明日香



地方のみなさんとともに

仕事内容

多様な自治体の姿を見ながら

私はいま長野県に向向しており、県内市町村の財政運営サポートや財政状況のとりまとめを主な業務とする市町村課財政係というところで働いています。長野県は、人口約40万人の中核市から、人口500人にも満たない小さな村まで多様な77もの市町村で構成されているのですが、当然それぞれ異なる事情を抱えており、市町村から財政に関する相談があれば個別に詳しい状況を伺い、ときには現地で実際の状況を見ることで、その地域の視点に立ちながら一緒に悩み、解決への道を探っていきます。財政用語は難しいものが多く、ひとつひとつの意味を理解するのも苦労しますが、市町村の想いに応えるような結果が導き出せたときはホッとします。

今までほぼ縁がなかった長野県での仕事には不安もありましたが、総務省で仕事をしているだけでは分からなかった地方自治の現場の事情も少しずつ見えてきますので、総務省に戻ったときに必ず役に立つ経験になると思っています。

総務省について新規採用者へ伝えたいこと

地方のための制度づくり

総務省では、総務省採用職員のほか、日本全国の地方公共団体から出向してきている方々も同じ職場で働いています。みなさんは、長年地方自治の現場で仕事をされてきた方々ですので、地方の実情を詳しく知っておられます。そんな方々から地方の色々な話を教えて頂きながら、地方のためになる制度設計等を一緒に行うのが総務省ならではの魅力だと思います。

また、総務省で仕事をしていて上司の方によく教えられたのは、自分が担当している業務は自分が日本で一番詳しいと思って仕事をしなくてはならないということです。総務省には日々全国の地方公共団体から制度等に関する質問が寄せられます。それらは市町村や都道府県では判断がつかなかったものなので、総務省が回答できなければ誰も回答できる人がいません。難しい質問も多く大変なこともあります。このような責任のある仕事ができるのも、総務省ならではの魅力だと思います。

Private Time

週末は県内を巡り、その土地の名物を食べたり温泉に入ったりしています。また、新たな趣味として長野県庁のそば打ち部に入部しており、熟練の職員の方からそばの打ち方を教えて頂き、そのそばを食べながらそば談議に花を咲かせることもあります。9月には、年に一度のそば打ちの段位認定試験を受け、無事に初段を取得できました。



とある一週間

- 月曜日**
市町村から交付金の実施計画が提出され、それが適当なものか1つ1つチェックしました。
- 火曜日**
業務の合間に研修を受講。ワークライフバランス等について学びました。
- 水曜日**
今日は定時退庁日なので、時間通り業務を終わらせ、係の皆さんと飲みに出かけました。
- 木曜日**
町から財産処分について相談があったので、事情を聞きつつ対応策を検討しました。
- 金曜日**
市役所に出張し、起債検査を行いました。ランチは地元の名物をいただきました。

やりがいを感じさせる場所

仕事内容

地域の「声」から学ぶ

地方のために働く総務省では、若手のうちから地方へ赴任するチャンスが与えられています。総務省職員として採用された私は、現在長崎県の職員として働いています。各団体が財源確保のために起こす地方債の手続き業務や地方交付税の数値の取りまとめなどが主な担当業務です。長崎県は全国的にも市町村合併が進んでいる地方自治体であり、また県内には数多くの離島があります。そのため、それぞれの地域の特徴をしっかりと理解した上で、各団体に見合った助言をすることが日々求められています。そして担当業務によっては、総務省の担当課とやり取りすることがあり、有利な財源を確保するため、時には粘り強く掛け合うこともあります。市町に近い立場の県庁職員だからこそ聞ける現場の声を大切に、今できる最大限の解決法や対処法を見つけていくことを常に心がけながら、日々勉強しています。

総務省について新規採用者へ伝えたいこと

様々な立場から得られるもの

入省後の約二年間私は選挙部に所属し、その間二度の国政選挙を経験しました。入省前の私は選挙についてあまり関心がありませんでしたが、実際選挙を管理執行する立場に立ってみると、一回の選挙に多くの総務省や地方自治体の職員が関わっている事を知りました。一年目の私は微力ながらもその大勢の中の一人として、選挙が無事終了することに少しの自信と経験を得ることができました。

そしてその少しの自信と経験を胸に、私は今県の職員として、市町村は今どんなことを必要とし、どんなことに頭を悩ませているのかをしっかりと受け止め、地域の実情に見合った助言を行う立場に立っています。ここで得られた経験や知識もまた着実に自分の糧となり、総務省に戻った後も仕事の幅を広げてくれるものだと信じています。

もし総務省に少しでも興味を持たれているのなら、是非一度話を聞きに来てください。きっとここで何かを得られるはずです。

Private Time

長崎県内には数多くの観光スポットがあり、休日は主に同僚と観光や美味しいものを食べに行ったりしています。また県内には離島も多く、去年の夏はみんなで島にキャンプに行きました。島の景色や特産品を堪能しながら、同僚や市町の方と一層親交を深めることができました。総務省の先輩や後輩も遊びに来てくれました。

